

各位

TOMOEGAWA

(登録商号: 株式会社巴川製紙所)

第161期(2020年3月期)第1四半期 決算説明資料

1. 決算概況

第1四半期決算の概要

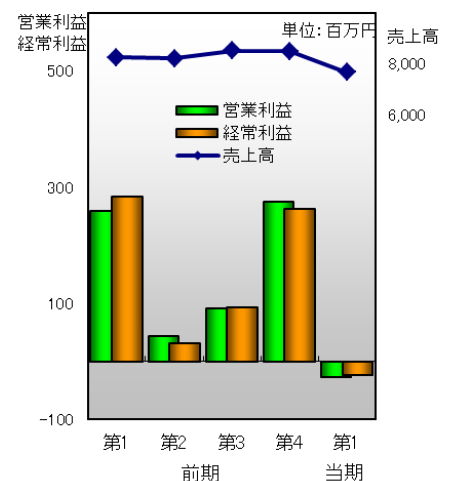
	前期	当期	差異	(増減率)	(単位:百万円)			
					2019年5月15日発表 第2四半期累計 業績予想	2019年8月9日発表 第2四半期累計 業績予想	2019年5月15日発表 年度業績予想	2019年8月9日発表 年度業績予想
売上高	8,246	7,658	△ 587	(△ 7.1%)	16,500	16,000	34,500	33,500
営業利益	260	△ 26	△ 287	(—)	300	50	800	550
経常利益	285	△ 22	△ 307	(—)	300	50	800	550
当期純利益	99	△ 97	△ 197	(—)	200	△ 100	650	300

※本資料における「当期純利益」とは、現行会計基準における「親会社株主に帰属する純利益」を指します。

当第1四半期の業績は、前期に減損損失を計上した機能紙事業部の洋紙事業における減価償却費の負担軽減から利益率の改善が見られた。一方で、トナー事業では、販売活動の強化に鋭意努め、前年同期とほぼ同水準の数量を維持したものの、前期第4四半期での意図せざる前倒し受注の反動や中国市場での価格競争激化に加え、新製品の立上げ遅れから、販売金額が減少した。更に電子材料事業でも、長期化する半導体市場の需給調整の影響もあり、売上高は前年同期と比べ5億8千7百万円減収の76億5千8百万円(前期比7.1%減)となった。

利益面では、コージェネレーション設備稼働による電力費上昇抑制をはじめとするコストダウン施策で想定以上の成果を出した一方で、減収影響に加え、前期の積極投資による固定費増加から、営業利益は前年同期に比べ2億8千7百万円減益の△2千6百万円(前期は2億6千万円の利益)となった。経常利益は、前年同期と比べ3億7百万円減益の△2千2百万円(前期は2億8千5百万円の利益)、当期純利益は前年同期と比べ1億9千7百万円減益の△9千7百万円(前期は9千9百万円の利益)となった。

四半期ごとの売上高・営業利益・経常利益



2. 今後の業績見通しについて

為替レート変動が円高に進行している中で、その影響を最も受けるトナー事業は、下期に向けた新製品投入を加速するとともに、円高対策として生産拠点を日本から海外へのシフトを進めることで、前期末に製造設備の増強が完了した中国製造子会社2社の稼働率を上げていく。更に継続したコストダウン活動をより拡充することで価格競争力強化に努め、積極的な販売活動の更なる展開により販売数量増加に繋げていく。また、電子材料事業においては、引き続き、「第5世代移動通信システム(5G)」需要の確実な取り込みに注力することに加えて、光学フィルム関連の新製品販売を推し進める。

利益面においても、当初設定したコストダウン施策に加え、洋紙事業構造改革などの新規コストダウン施策の積み上げ効果を見込んでいる。

業績予想の前提となる期中平均為替レートは、第2四半期累計期間は、1米ドル109円(前回予想より1円の円高)、年度については、1米ドル107円(前回予想より3円の円高)としている。

以上を踏まえ、5月15日に公表した業績予想値は、第2四半期累計期間の売上高を160億円に、営業利益、経常利益は夫々0.5億円に、当期純利益は△1億円に下方修正する。年度では、売上高を335億円に、営業利益、経常利益は夫々5.5億円に、当期純利益は3億円に下方修正する。

以上